

日 時	令和5年11月14日（火） 14時00分～15時30分
視 察 先	北海道千歳市
視 察 目 的	特定事件7 防犯・防災対策について ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
視 察 概 要	市民、自治会自主防災組織、ボランティア、防災関係機関が単独または相互に連携し、防災学習や防災訓練を実施することで、市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深めることを目的とする施設で、災害時には、災害対策の拠点となる施設である。
所見及び所感	<p>防災学習交流センター「そなえーる」は、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶことができる施設で、Aゾーン・Bゾーン・Cゾーンの3つの施設で構成されている。</p> <p>Aゾーン「防災学習交流センターそなえーる」は、防災講座や救急講習、自主防災組織の訓練など防災学習の拠点施設である。疑似体験では、災害学習・地震体験・通報体験・予防実験・防災情報検索・煙避難体験・避難器具体験ができるほか、クライミングボード（山岳救助訓練板）も整備されていた。</p> <p>Bゾーン「学びの広場」では、消火訓練・救出体験訓練ができる。</p> <p>Cゾーン「防災の森」では、災害時を想定した野営生活訓練ができる3つの施設で構成されていた。</p> <p>Cゾーン「防災の森」野営生活訓練広場は、キャンプ場としても使用することができる。また、サバイバル広場は、自然の中で体力増進のための遊具を設けた広場で、アスレチックと同等の広場である。</p> <p>大規模災害時に迅速に初動体制を確立し、的確な応急対策をとることは、被害を最小限にするために重要であり、そのためには日頃から実践的な対応力を身に付けておく必要がある。防災訓練は住民等の多くの主体が連携した訓練を実施し、実践的かつ効果的な訓練となるよう努めることとされている。このようなことから、防災学習交流センター「そなえーる」のような施設は大変重要だと感じた。</p>

日 時	令和5年11月15日（水） 9時00分～10時30分
視 察 先	北海道札幌市
視 察 目 的	特定事件3 事務改善について ・DX化の推進について
視 察 概 要	<p>札幌市は、これまでもICTの積極的な活用を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の対応においては、行政サービスの徹底的なデジタル化が必要不可欠であると痛感し、人口減少やデジタル社会に対応するとともに、あらゆる面で持続可能な札幌のまちをつくり、次の時代につなげていくことが重要だと考えた。</p> <p>そのためには、デジタル技術の有効活用によって、行政分野にとどまらず、都市・地域全体のデジタル化を図るスマートシティを実現し、市民の快適な暮らしや個別最適化された官民のサービス提供を確保していくために行政の責務として、デジタルトランスフォーメーションという命題に対し、全庁一丸となって取り組んでいる。</p>
所見及び所感	<p>札幌市は、1980年代から情報産業の振興に努めてきており、全国的な超高速情報通信ネットワークの整備やIT化に先駆けて、平成9年度には「札幌市情報化構想」を策定し、まちづくりへの積極的なITの活用を推進している。</p> <p>また、平成13年度に策定した「札幌市IT経営戦略」及び平成16年度に策定した「札幌IT戦略」に基づいて、行政の効率化を進めてきている。社会全体のデジタル化が加速していく中、費用対効果や業務効率化の視点のみならず、市民の利便性向上を主眼にデジタル技術を活用し、複雑多様化する社会課題の解決と、地域社会の持続的な発展につなげるという意識を持ちながら、デジタル改革に取り組んでいる。</p> <p>人口減少社会において、誰もが安心して利便性を実感し、真に市民生活の質の向上につながる市民目線によるデジタル改革を、地域社会全体で計画的に進め、デジタル活用による行政サービスの効率化・行政のデジタル改革だけでなく、スマートシティの取組や、地域産業のデジタル化を両輪として進めている。</p> <p>庁舎内のデジタル人材育成と各部局との連携がなくてはデジタル改革は難しいようである。</p>

日 時	令和5年11月14日（火） 14時00分～15時30分
視 察 先	北海道千歳市
視 察 目 的	特定事件7 防犯・防災対策について ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
視 察 概 要	<p>●千歳市防災学習交流施設は、平成22年4月にオープン、総面積約8.4ha、建設費約21億円（防衛の民生安定事業・補助率7.5/10）の市の直営施設（8～9名勤務）である。市民（自主防災組織）、ボランティア、防災関係機関等が防災学習や防災訓練等を実施することで、市民や関係機関の防災力を高めることを目的とし、災害時には災害対策の拠点として使用する。</p> <p>●「そなえーる」は、災害を「学ぶ・体験する・備える」をテーマに、防災への意識向上を目的とし、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具等を備えている。</p> <p>●交流施設はゾーン分けされており、「そなえーる」のほかにも、雨水調整池や消火体験、救出体験のできる広場、野営生活訓練広場、河川災害訓練広場、土のう訓練広場、サバイバル訓練広場等、多様な学習や体験のできる広場がある。</p> <p>●施設建設の背景＝市街地の三方を取り囲む形で自衛隊駐屯地があり、市街地の周縁部には装軌車両（主に戦車）が頻繁に通行する公道（通称C経路）が通っている。その騒音対策等課題がある中で、防衛施設周辺地域の発展に貢献する高額の補助制度が創設され、課題解決と防災対策の推進等の観点から、住民要望や住民懇話会での議論を踏まえて、防災学習交流施設の整備が決定された。</p>
所見及び所感	<p>●東日本大震災や北海道胆振東部地震等、実際に起こった地震を体験できる装置や、煙で視界が利かなくなる中、開く扉を探しながらの避難体験ができる装置、コンセントからの発火現象を見られる予防実験等を体験させていただき、言葉だけの啓発より身をもって体験することで意識向上を図る効果は非常に大きいと感じた。</p> <p>●自衛隊基地に囲まれたまちという土地柄、また台風・大雨・雪害・地震等の災害に見舞われた経験等もあり、発災時にそのまま災害対応の拠点として使える広場、備蓄倉庫、常設ヘリポート等を擁している規模の大きさに驚嘆した。</p>

日 時	令和5年11月15日（水） 9時00分～10時30分
視 察 先	北海道札幌市
視 察 目 的	特定事件3 事務改善について ・DX化の推進について
視 察 概 要	<p>●札幌DX推進方針を「人口減少社会において、誰もが安心して利便性を実感し、真に市民生活の質の向上につながる市民目線によるデジタル改革」を地域社会全体で計画的に進めることを目的に策定。市民サービス向上と行政の効率化、スマートシティ実現、地域産業のデジタル化推進を重点ポイントとする。</p> <p>●推進体制としてDX推進本部と札幌市COE（デジタル企画課+DXアドバイザー）。デジタル戦略推進局でCDO補佐官2名、DXアドバイザー2名を配置し、スマートシティ推進部と情報システム部で構成。</p> <p>●札幌市は早くからデジタル化への取組があり、市独自のシステムがあった。人口減少を踏まえ職員数を削減しても今と同等以上の行政サービスができることを目指し、システムの仕様は全て市で決めた。</p> <p>●サービス設計12か条を踏まえた推進。①利用者のニーズから出発する②事実を詳細に把握する③エンドツーエンドで考える④すべての関係者に気を配る⑤サービスはシンプルにする⑥デジタル技術を活用し、サービスの価値を高める⑦利用者の日常体験に溶け込む⑧自分で作りすぎない⑨オープンにサービスを作る⑩何度も繰り返す⑪一遍にやらず、一貫してやる⑫情報システムではなくサービスを作る</p> <p>●地域のデジタル改革としてのデジタル田園都市国家構想のモデル事例の紹介、オープンデータ活用のプラットフォーム構築の説明</p>
所見及び所感	<p>サービス設計の考え方、特に業務プロセスの見直し（BPR）を前提とし、D（デジタル）よりX（トランスフォーメーション）が重要、エンドツーエンドのデジタル化を目指す、部分最適ではなく全体最適を目指す等は大切だと思った。デジタル化自体が目的ではなく、業務の効率化と市民サービス向上の実現に寄与する一体的な改革が必要であることが、介護保険認定業務のDXという事例で説明され、具体的に理解できた。また発想が現状の業務プロセスに引きずられないように、業務担当者と協議を重ねてDX実施にこぎつけているプロセス</p>

に感銘を受けた。専門的知見を入れる必要性も感じた。

総務環境常任委員会委員 安 保 友 博

日 時	令和5年11月14日（火） 14時00分～15時30分
視 察 先	北海道千歳市
視 察 目 的	特定事件7 防犯・防災対策について ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
視 察 概 要	<p>千葉市防災学習交流センターそなえーるは、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶことができる施設である。</p> <p>東日本大震災や北海道胆振東部地震の揺れを体験できる装置、災害学習コーナー、煙避難体験コーナーなどがあり、また併設の施設にはキャンプをしながら防災体験ができるところもあり、子どもから大人まで広く防災を体験し、学ぶことができる総合施設である。</p> <p>また、「そなえーる」の施設において合同防災訓練を行うなど、自衛隊、警察、消防と市民が連携し、防災力を高めている。</p>
所見及び所感	<p>防災は日頃から災害を理解し、意識して頭に置いておくことが重要であるところ、楽しみながら防災を学べることから、市民の生活の中に「そなえーる」の存在が当たり前前に定着していることは大変有意義なことだと思う。</p> <p>市内ほとんどの小学校では、4年生が授業の一環として施設を訪れ体験学習を行っている。子供の頃から防災意識を醸成する試みとしては非常によく機能していると感じた。和光市においても、ハザードマップの配布や、まちづくり伝道師制度など取組がなされているが、「そなえーる」を参考にして、より市民1人1人が防災を当たり前前に考えることができるような取組を実施していくことは重要なことであると考えた。</p> <p>また、人口の25%が自衛官ということもあるが、官民連携で防災に取り組むことは、有事の際には特に効果的であると感じた。首都圏には九都県市合同防災訓練があるが、市独自に同様な訓練が行われていることも特に優れた制度であると感じた。</p>

日 時	令和5年11月15日（水） 9時00分～10時30分
視 察 先	北海道札幌市
視 察 目 的	特定事件3 事務改善について ・DX化の推進について
視 察 概 要	<p>札幌市では、デジタル戦略推進局という部署があり、約140人体制でDXが推進されている。札幌市はDX推進の歴史が古く、1980年代以降、現在まで積極的に取組が実施されてきた。DX化推進は専門性が求められることから、公募のDXアドバイザーを2名任期付職員として配置して対応している。</p> <p>現在のDX化推進方針は、人口減少社会において、誰もが安心して利便性を実感し、真に市民生活の質の向上につながる、市民目線によるデジタル改革を地域社会全体で計画的に進めること（デジタル社会の形成）を目的として策定されている。</p> <p>重点ポイントは4つ掲げられており、市民起点の行政サービスの提供と、飛躍的な業務の変革は行政のデジタル改革として、また、スマートシティの実現と、地域産業のデジタル化は地域のデジタル改革として位置づけられている。長年DX化に取り組んでいても、現場との感覚のすり合せには苦勞をしており、実務を総合的にDX化として変革していくことは重要であるとのことであった。</p> <p>ツールありきではなく、業務プロセスの見直し（BPR）という考え方で、現在の姿を可視化し、あるべき姿を定義し、実現可能な姿を描くという作業が必須であるということであった。</p>
所見及び所感	<p>行政ニーズは減らないが、人は今後減少していくことから、DX化を進め、業務の効率化を図り、少ない人数でも行政サービスの質を落とさないことは、今こそ取り組まなくてはならない課題であることをよく理解できた。</p> <p>ペーパーレス化を図り、業務効率が改善することで職員は市民要望を酌み取りつつ、より働きやすくなるが、市民側から見れば、できる人はスマートフォンやPCからオンライン申請を利用できるようになることで、利便性が格段に向上することになるため、市と市民と双方にとってメリットが大きい。また、スマートフォン等が使えない高齢者などは、従来どおり窓口に来てもらい、そこで職員が説明しながら</p>

らデジタル申請をしてもらうことで、問題なく手続を行うことができるという点は今回の視察において新しい発見であった。

総務環境常任委員会委員 鳥飼 雅司

日 時	令和5年11月14日（火） 14時00分～15時30分
視 察 先	北海道千歳市
視 察 目 的	特定事件7 防犯・防災対策について ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
視 察 概 要	<p>千歳市防災学習交流施設（そなえーる）について</p> <p>1 施設建設の経緯と目的</p> <p>市の総合計画で位置づけている防災対策の推進や自主防災組織の充実の観点から、住民要望や住民懇談会での議論を経て、防災学習交流施設の整備が決定された。</p> <p>総事業費の財源内訳は防衛省所管の民生安定事業を活用し、国庫補助率を75%、残りの25%を起債と市債に振り分けている。</p> <p>2 施設の概要</p> <p>「そなえーる」は災害を「学ぶ・体験する・備える」をテーマに、疑似体験や防災を学習できる施設となっている。起震装置や煙避難装置、予防実験装置、避難器具が屋内に設置されている。また、消火体験や救出体験ができる広場や野営生活訓練広場や河川災害訓練広場、土のう訓練広場など、広大な土地で様々な模擬体験ができる施設になっている。</p> <p>3 管理・運営、事業内容・施設の利用状況</p> <p>4 今後の予定と課題</p> <p>5 千歳市における防災・減災の構想</p>
所見及び所感	<p>千歳市は多くの自然災害（大雪、川の氾濫、倒木による交通網の寸断、地震、噴火対策、火災など）の発生が予測され、それに対応し得る対策が練られていた。</p> <p>実際に起震装置を使った模擬体験や火災が起こった時の煙の動きを学び、煙避難装置を使った模擬体験をした。実際に事が起こると冷静な判断が難しく事前に学ぶことの大切さを実感した。また、都市部においての震災がささやかれる中、事前にできることを準備し備えることの大切さを学んだ。</p>

日 時	令和5年11月15日（水） 9時00分～10時30分
視 察 先	北海道札幌市
視 察 目 的	特定事件3 事務改善について ・DX化の推進について
視 察 概 要	<p>札幌市のDXに関する取組について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>DX推進の背景とデジタル戦略推進局の組織体制</li> <li>札幌DX推進方針について「策定目的」 DXによって目指す社会とは DX推進体制</li> <li>行政のデジタル改革 サービス設計の考え方とは 業務プロセスの見直し、既存アプリケーションの活用 デジタル改革の事例（介護保険認定業務）</li> <li>地域デジタル改革 ICT活用戦略、データスマートシティ 官民データ流通促進による新たなサービス創出 デジタル田園都市国家構想</li> <li>官民連携の取組 大手企業との連携協定、オープンイノベーションの推進 官民連携による先進サービス等の実証実験</li> </ol>
所見及び所感	<p>なかなか進まない、当市庁舎内のDX化。現状、一年通してシステム改修の費用が計上されているが、市民サービスの向上が目的ではなく、業務の効率化がメインとなっており、先進市の視察を通して、学ぶ点が多くあった。</p> <p>財政や職員数は当市とは規模が違うが、様々な部分（計画、組織体制など）で照らし合わせて考えてみると、参考になるところも多くあり、デジタル化を進めていけるのではないかと感じた。また、官民連携において、当市にも大手企業や研究所、物流拠点があり、それらと連携（協定、協働）し、人材の支援等を要請することも可能ではないかと感じた。DX化するに当たり、当市においてもしっかりと進めているが、目的を明確にし、計画を立て、「誰もが取り残されない」を基本に進めていただきたいと思います。</p>

日 時	令和5年11月14日（火） 14時00分～15時30分
視 察 先	北海道千歳市
視 察 目 的	特定事件7 防犯・防災対策について ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
視 察 概 要	千歳市防災学習交流施設 ・施設建設の経緯と目的 ・施設の管理、運営 ・事業内容、施設の利用状況 ・今後の予定、課題
所見及び所感	<p>千歳市は石狩平野の南端に位置しており、札幌市や苫小牧市など4市4町に位置する。札幌市へは快速エアポート利用をすると、約30分で到着できる。冬の時期の降雪量は約1メートルと、北海道の中では比較的少ない地域。また、丘陵地帯で畑作や酪農など農業が盛んであり、中央部はほぼ平坦なところから工業団地、空港、防衛施設、農地などに利用されている。特に自衛隊が市街地の北東、南東、南西の地域にあり、しかも市街地の週縁部の公道は装軌車両、主に戦車が頻繁に通行する通称「C経路」が通っている。</p> <p>「そなえーる」は災害を「学ぶ・体験する・備える」をテーマに、災害の疑似体験や災害学習を通して、災害に対する意識を高めてもらうことを目的に、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具などを備えた施設である。</p> <p>事業内容は地域防災訓練や町内会自主防災組織等による消火、救出等の防災訓練、救急救命等の向上のための救急講習会等の防災イベント事業の展開をしている。</p> <p>災害が発生した時、避難行動に移すかどうかの判断は、各自の価値観が働くと思う。市民の防災意識を高めるために防災ハンドブックを活用し、災害から自分の身を守る自助・共助・公助などについても、防災学習や災害模擬体験を活かした意識づけがとても大事であると認識している。</p>

日 時	令和5年11月15日（水） 9時00分～10時30分
視 察 先	北海道札幌市
視 察 目 的	特定事件3 事務改善について ・DX化の推進について
視 察 概 要	<p>(1)デジタル戦略推進局の組織体制</p> <p>(2)DX推進の背景</p> <p>(3)札幌DX推進方針について ・DXによって目指す社会</p> <p>(4)札幌DX推進方針・DX推進体制</p> <p>(5)行政デジタル改革 ・サービス設計の考え方 ・業務プロセスの見直し(BPR)</p> <p>(6)地域デジタル改革 ・札幌市ICT活用戦略 ・-DATA-SMART CITY SAPPORO ・さっぽろ圏データ取引所の取組 ・デジタル田園都市国家構想</p> <p>(7)官民連携の取組 ・大手ソフトウェア会社との連携協定 ・デジタルデバイド解消に向けた大手通信・IT企業との協働 ・オープンイノベーションの推進 ・札幌DXラボ</p>
所見及び所感	<p>札幌市は、市制100周年という節目にあつて、次の100年を見据え人口減少やデジタル社会に対応していく、あらゆる面で持続可能なまちづくり、次の時代に繋げていくことが重要である。</p> <p>そのためには、デジタル技術の有効活用によって、行政分野にとどまらず都市、地域社会全体のデジタル化を図るスマートシティを実現し、市民が安心して暮らしを守るために官民のサービスの提供を確保している。</p> <p>人口減少社会において誰もが安心して利便性を実感し、真に市民生活の質の向上につながる市民目線によるデジタル改革として、市民目線に立った行政サービスと大手通信・IT企業との協働により、高齢</p>

	者をメインターゲットとしたスマホ教室を開催。一人も取り残さないと認識した。
--	---------------------------------------

総務環境常任委員会委員 渡 邊 竜 幸

日 時	令和5年11月14日（火） 14時00分～15時30分
視 察 先	北海道千歳市
視 察 目 的	特定事件7 防犯・防災対策について ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
視 察 概 要	<p>和光市版スーパーシティ構想のコンセプトとして、「レジリエント：災害などの様々な危機に対応でき、将来にわたって市民が安心して暮らせる強靱さがあること」を掲げている。</p> <p>昨今の自然災害（当市においては線状降水帯による豪雨被害による冠水や河川氾濫等）の被害が想定される。また、当市は隣接となるが自衛隊基地のある街として、似たような環境における千歳市の取組を学ぶことで、レジリエントな当市の危機管理対応や組織・地域との協力体制の向上に活かせるのではと思います、千歳市の取組を視察した。</p>
所見及び所感	<p>千歳市防災学習交流センター「そなえーる」は、平成22年にオープンしてから、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶことができる。また、防災講座や救急講習、自主防災組織の訓練など防災学習の拠点施設としても活用し、市民の防災力アップに寄与している。</p> <p>当日は、館長より千歳市の取組の説明を受けた後に、施設内にある各体験をして、地震や火災発生時の疑似体験や家庭内における火災発生リスクを学んだ。</p> <p>千歳市は、豪雨被害・活火山による噴火（噴煙）被害・豪雪被害に見舞われるリスクがある。また、千歳川沿いに活断層があり、普段から地震災害に対する準備が必要であるとのことで、毎年、総合防災訓練を実施し自衛隊も参加して、全市を挙げて災害に備えている。訓練だけではなく、災害に対する備えや心構え等をまとめた冊子「防災ハンドブック」の更新を適宜行い、令和5年2月末までに市内の各家庭に配布し、常時防災の啓蒙活動を行っている。</p> <p>施設建設時は補助金を活用したが、老朽化による維持管理費は自治</p>

	<p>体として対応していかななくてはならない問題をはらんでいる。</p> <p>展示内容として、3D・4Dやバーチャル体験などの新しい技術を導入した展示内容のリニューアルも必要とのこと。</p> <p>「そなえーる」を和光市単独の事業として行う優先順位は低いと思うが、地域にとって防災意識の向上につながることから、既存の防災教育の一環の中で取り組める要素は活用できるのではと考える。</p>
--	---

総務環境常任委員会委員 渡 邊 竜 幸

日 時	令和5年11月15日（水） 9時00分～10時30分
視 察 先	北海道札幌市
視 察 目 的	<p>特定事件3 事務改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DX化の推進について</li> </ul>
視 察 概 要	<p>本市も令和3年に和光市デジタルトランスフォーメーション（以下、DXと表記）推進本部を設置し、和光市DX推進全体方針を定め、スマートシティの実現に向けて自治体DXに取り組んできた。</p> <p>本市は、首都圏への交通の利便性が高いことから、多くの市民が首都圏に通勤・通学等をしている。そのため、勤労世代を中心として、日中に市役所等に来庁しての行政手続を行うことは、負担感がある。こうした状況を改善する観点から、本市においても、行政手続のオンライン化をはじめとする市民の利便性を向上させるためのDXを導入しており、ICTを利用した業務の効率化や職員の働き方改革も推進されている。</p> <p>昨今の人口減少下において、安定的かつ良質なサービスを提供するための生産性向上や、新型コロナウイルスなどにより顕在化した新たな社会生活に対応するため、行政のDXに対する要請が高まっている。ICT先進地の札幌のDX推進方針を調査し、当市の次なる時代のDXの参考とする。</p>
所見及び所感	<p>札幌市デジタル推進局の担当者より、札幌市の人口推計（職員数と比例）を元に、今後いかに質を落とさずに市民サービスを提供していくか、いかにDXを推進していくかの説明を受けた。</p> <p>札幌市におけるDXは、生活の利便性の向上、防災への活用、ビジネスの効率化や付加価値の向上。効率的で質の高い行政運営の実現など、都市課題の解決に当たり、令和2年12月の国からの自治体DX</p>

推進計画を受け、従来の内容を補強し人口減少社会において、誰もが安心して利便性を実感し、真に市民生活の向上につながる市民目線によるデジタル改革を地域全体で計画的に進めることを目的に、令和3年より現在の札幌DX推進方針を掲げている。

札幌DX推進方針は、①市民起点の行政サービスの提供②飛躍的な業務の変革③スマートシティの実現④地域産業のデジタル化の4つのポイントに重点を置くこととし、自治体DXに基づく行政のデジタル改革と札幌市独自の地域のデジタル改革を通じ市民生活の質の向上を推進している。

行政のデジタル改革（サービス設計の考え方）においては、サービス設計12箇条を掲げ、市民（利用者）目線で考え、業務プロセスの見直しを前提に、業務部門と情報政策担当部門＋管理部門のチームとして取り組むことで、従来の業務プロセスに引きずられない検討・取組をしています（意識改革が大切でペーパーレスの前に、打合せ数を減らす、いかにワンストップ手続を構築できるか等）。

また地域のデジタル改革として DATA SMART CITY SAPPOROの利活用による生活、経済、教育、行政の生産性、質の向上、新価値の創造を追求し、暮らしの利便性や経済の活性化を推進すべく、ビッグデータを活用するプラットフォームを構築している。新規取組として、官民データ流通促進による、さっぽろ圏データ取引所を開設し、主に飲食店や公共交通事業者が利活用をしている。

官民連携の取組として、DXラボによる先進的サービス等の実証実験にも取り組んでいる。企業側から提案があっても、担当部局では利用方法が良くわからないので、行政と民間でつくったプロジェクトチーム（DXラボ）を設置し、提案されたDXの提案内容を集約し検証する体制を構築。

そして、これらの取組を推進するためにも、DXアドバイザーを2名任用し、専門的な知見を導入してDX化を推進している（令和6年度は人員を増やす予定）。

担当者より、「DX化といえども、全てをデジタルに置き換えるのではなく、必要なものはデジタル化をし、アナログの部分（対面等）も残しつつ、スマホ等で完結できる方はネット上で手続きを済ませ、操作が苦手な方は来庁いただき手続をしていただく」という言葉が記憶に残った。

市民が行政サービスを受けやすい形として、どう形成していくべきか、腑に落ちた気がする。

総務環境常任委員会委員 小嶋 智子

日 時	令和5年11月14日(火) 14時00分～15時30分
視 察 先	北海道千歳市
視 察 目 的	特定事件7 防犯・防災対策について ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
視 察 概 要 所見及び所感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民（自主防災組織）、ボランティア、防災関係機関が単独または相互に連携し、防災学習や防災訓練等を実施することで、防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深めることを目的とし、災害時には災害対策拠点として使用される。</li> <li>・平成14年度に、防衛施設周辺地域の発展に貢献する高額の補助制度である「まちづくり構想策定支援事業」を新たに創設したため、住民要望や住民懇話会での議論を踏まえて防災学習交流施設の整備が決定された。</li> <li>・施設の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>A・B・Cの3つのゾーンからなり、Aゾーンは「防災学習交流センターそなえーる」、防災訓練広場、ロープ訓練塔、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練塔、常設ヘリポート、駐車場などを完備している。</li> <li>Bゾーン「学びの広場」は造成に伴う雨水調整池と消火体験や救出体験を通し、自助・共助を学ぶ広場となっている。</li> <li>Cゾーン「防災の森」は約150人がキャンプに利用できる「野営生活訓練広場」と調整池を兼ねた「多目的広場」、湧き水を利用した「河川災害訓練広場」「土のう訓練広場」、アスレチック遊具などを備える「サバイバル訓練広場」、管理棟、駐車場を配置し共同作業が体験できる広場となっている。</li> </ul> </li> <li>・施設の管理運営は9名体制で、屋内外設備の維持管理や施設利用者への説明、展示場の案内、訓練広場の開放などの業務を行う。夜間の管理は警備保障会社に委託。</li> <li>・市民の防災意識を高めるため、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による、消火・救出等の防災訓練、救急救命率の向上のための救急講習会、市民を対象とした千歳市民防災講座や町内会、自主</li> </ul>

	<p>防災組織及び事業所を対象とした防災関連講座、防災イベントなどの事業を展開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も防災に対する意識の向上に取り組んでいく。また市民や市内の小中学生には、災害から自分の身を守る自助、共助、公助などについて、防災学習や災害模擬体験などを通じて、関心を一層高めるとともに、市民、自主防災組織及び防災関係機関の意識づけを継続して進める予定。</li> </ul>
--	--

総務環境常任委員会委員 小嶋 智子

日 時	令和5年11月15日（水） 9時00分～10時30分
視 察 先	北海道札幌市
視 察 目 的	<p>特定事件3 事務改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DX化の推進について</li> </ul>
視 察 概 要 所見及び所感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1980年代以降、ICT活用によるまちづくりを推進。</li> <li>・人手不足を実感、危機感がありDX推進の必要性を感じるようになった。</li> <li>・デジタル戦略推進局の組織体制 140名くらいの組織。CDO補佐官として外部の方2名。DXアドバイザーとして公募のIT企業出身の方2名、スマートシティ推進、マイナンバーカードの発行、証明郵送センター、内部システム管理、運用等を行う。</li> <li>・札幌DX推進方針は「人口減少社会において、誰もが安心して利便性を実感し、真に市民生活の質の向上につながる市民目線によるデジタル改革」を地域社会全体で計画的に進めること（デジタル社会の形成）を目的として策定された。</li> <li>・ICT・データを駆使することにより、人の手だけでは実現できなかった飛躍的な業務の変革や、新たなプッシュ型のサービス等を実現していくため、「サービス設計12箇条」を踏まえつつ ①市民起点の行政サービスの提供（向上）②飛躍的な業務の変革 ③スマートシティの実現 ④地域産業のデジタル化に重点を置く。</li> <li>・DXによって目指す社会—市民生活の質の向上。</li> <li>・併せて取り組むべきこと アクセシビリティの確保、デジタルデバインド対策（高齢者のスマホ</li> </ul>

	<p>教室等)、サイバーセキュリティの強化、個人情報の保護。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政のデジタル改革 —サービス設計の考え方—</li> <li>・市民目線で考える。</li> </ul> <p>市民にとってのメリットにつながる改革を目指す。自分がユーザーだったら行政にどうあってほしいか考える。「デジタルでしなくてはならない」ではなく「デジタルでいたい人がデジタルです」という、あくまでも市民目線で。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務プロセスの見直し（BPR）を前提とする <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務部門と情報政策担当部門＋管理部門で取り組む</li> </ul> </li> <li>・官民連携の主な取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民目線で実現するDX推進</li> <li>・データ駆動型スマートシティの実現</li> <li>・デジタル人材の育成</li> <li>・地域のDX推進</li> </ul> </li> <li>・高齢者へのサポートはスマホ教室だけでは対応しきれない。役所に来た方は役所内でオンラインを利用してもらう。サポートも受けられるようにしている。</li> </ul>
--	--

総務環境常任委員会委員 岩 澤 侑 生

日 時	令和5年11月14日（火） 14時00分～15時30分
視 察 先	北海道千歳市
視 察 目 的	<p>特定事件7 防犯・防災対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について</li> </ul>
視 察 概 要	<p>千歳市防災学習交流センター「そなえーる」等によって構成される千歳市防災学習交流施設は、市の総合計画において位置づけられている防災対策の推進や、自主防災組織の充実等を図り、災害に強い安全なまちづくりを進めることを目的に、平成22年に開設されたものである。</p> <p>総事業費は約21億円で、防衛省補助事業である「まちづくり構想策定支援事業」を活用し、国庫補助率は75%となっている。また、残りの25%は、起債75%と市費25%に振り分けられている。</p> <p>施設の総面積は約8.4haで、防災学習交流センター「そなえーる」等からなるAゾーン、「学びの広場」と名づけられたBゾーン、「防</p>

	<p>災の森」としてキャンプにも利用できるCゾーンの3つのゾーンがあり、今回はAゾーン内の「そなえーる」を視察した。</p> <p>「そなえーる」は、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具等を備えた施設であり、これらの装置を用いた災害の疑似体験や防災学習を通じて、防災に対する意識向上を図ることを目的としている。</p> <p>特に起震装置は、単に揺れを生じさせるだけでなく、過去に発生した地震の波形を忠実に再現できる有用なものであり、平成23年の東日本大震災や、平成30年の北海道胆振東部地震の揺れを実際に体験した。</p> <p>また、その他の装置の体験、パネル展示の見学、映像資料の視聴、施設長の説明等から、施設の利活用状況や防災教育への取組、自主防災組織の組織率の推移等について確認した上で、質疑応答を行った。</p>
<p>所見及び所感</p>	<p>「そなえーる」は、災害を「学ぶ・体験する・備える」をテーマに、実際に災害を疑似体験することによって、防災に関する知識を学べる画期的な施設であると感じたが、人口が10万人に満たない千歳市が単独でこれを整備できたのは、防衛省所管の民生安定事業による国庫補助を受けられたことによるところが大きいものといえる。</p> <p>同施設が千歳市民の防災意識の向上に寄与していることは明らかであるが、施設の更新や改修、維持管理等のランニングコストを考慮すると、和光市において同様の施設を建設する必要性は低いと考える。</p>

総務環境常任委員会委員 岩 澤 侑 生

<p>日 時</p>	<p>令和5年11月15日(水) 9時00分～10時30分</p>
<p>視 察 先</p>	<p>北海道札幌市</p>
<p>視 察 目 的</p>	<p>特定事件3 事務改善について ・DX化の推進について</p>
<p>視 察 概 要</p>	<p>札幌市役所を訪問し、札幌市デジタル戦略推進局の担当者より、札幌市のDXに関する取組や、「札幌DX推進方針」について、実際の事業事例の紹介等を交えながら説明を受けた後、質疑応答を行った。</p>

所見及び所感

札幌市は、政府が「デジタル田園都市国家構想」を打ち出す以前の1980年代より、「札幌市情報化構想」「札幌市IT経営戦略」「札幌IT戦略」「札幌市ICT活用戦略」をそれぞれ策定するなど、ICT活用によるまちづくりを積極的に展開してきたことから、多くの知見やノウハウが蓄積されており、その上でDX化の推進が図られているものと感じた。

また、DX推進本部会議の本部長たるCDOに副市長を充て、トップダウンの指示体系を構築していること、公募によりCDO補佐官やDXアドバイザーといったポストに、民間の専門家を登用していること、各情報政策について必要な審査・承認を一元的に行い、仕様の平準化を図っていることなど、組織の有効性が極めて高い点にも着目すべきと考えた。

特に印象的であったのは、行政のDX化は役所の業務効率化のために行うものではなく、住民の利便性向上のために行うものであるという考え方である。すなわち、住民をユーザーと捉え、ユーザーベネフィットの観点からDX化を構想することを基本とし、あくまで住民サービスの向上という基準に沿って予算化がなされるとのことであった。

さらに、部分最適ではなく全体最適を目指すという原則から、例えば、各手続きごとにアプリが乱立するような状況を生じさせないように、一つのアプリの中で様々な手続きを完結できるようにするなど、縦割りの垣根を超えた政策統合を積極的に進めているとのことであった。しかし、市役所内の理解や合意形成の難しさが課題であるとのこと、DX化とは「何かを取り入れること」ではなく「意識を変えること」であるとの認識を共有すべく、粘り強く取り組んでいるとのことである。

超少子高齢社会の到来により、行政職員の減少や役所の人手不足と反比例する形で行政需要が高まっていくことが予想される中で、避けては通れない行政のDX化について知見を得る有意義な視察であった。

日 時	令和5年11月14日（火） 14時00分～15時30分
視 察 先	北海道千歳市
視 察 目 的	特定事件7 防犯・防災対策について ・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
視 察 概 要	施設建設の経緯と目的、施設の概要、管理・運営、事業内容・施設の利用状況、今後の予定・課題
所見及び所感	<p>千歳市は、石狩平野の南端に位置し、札幌市や苫小牧市に隣接し、直近の国政調査では、人口増加率が道内市部第1位の伸びている若いまちとの説明。新千歳空港、自衛隊基地があり、人口の25%が自衛隊関係者。また交通の一大交通拠点として、ネットワークが有機的に結びついており大きな将来性を感じる。また国産半導体工場の誘致に成功し「ラピダス」の投資額は5兆円規模となる大型事業との旨説明があった。国策である半導体産業の集積地としても注目されている。</p> <p>「そなえーる」は、自衛隊の演習等による騒音対策の被害から課題解決を図るため防衛施設の補助制度を利用し整備され、総事業費は約21億円、財源は国庫補助率75%、残り25%を起債と市費で賄った。</p> <p>防災・減災の構想により防災学習や防災訓練に使用し、①災害に強い都市づくり②防災・減災力の育成・強化③防災関係機関等との連携強化を通して、防災・減災対策の充実を図っている理想的な施設と思う。</p> <p>災害が発生した時、避難行動に移すかどうかの判断は、個々人の価値観が働くと思う。自分はどうするかという「主体性」が不可欠であり、自助が大事。災害を“我が事”として具体的に想像することで、「意識」は「認識」へと変わり、自らの命を守る行動へとつながる。最近では災害時にインターネット上で情報提供をするといった“デジタル共助”の可能性が模索されている。災害時にSNSで情報をもらって命が助かったという事例もあり、場所や空間を超えて「共助」が育まれる時代。身近な地域であっても、SNS上であっても、相手の置かれた状況を“我が事”として捉えて、思いをはせていく「共に生きるための力」を磨く防災は、そんな思いやりの心を育むものでもあると思う。そういった意味でも、この施設は、「防災」を私たちの社会や教育の大きな柱とし、未来を築いていくための確かな力になっていく、自助・公助の心を育む施設であると認識している。</p>

日 時	令和5年11月15日（水） 9時00分～10時30分
視 察 先	北海道札幌市
視 察 目 的	特定事件3 事務改善について ・DX化の推進について
視 察 概 要	<p>(1) デジタル戦略推進局の組織体制</p> <p>(2) DX推進の背景</p> <p>(3) 札幌DX推進方針—DX推進体制</p> <p>(4) 行政のデジタル改革—サービス設計の考え方、業務プロセスの見直し（BPR）、既存アプリケーションの活用（システム内政化）</p> <p>(5) 地域のデジタル改革 札幌市ICT活用戦略、札幌圏データ取引所、デジタル田園都市国家構想</p> <p>(6) 官民連携の取組他 大手ソフトウェア会社との連携、デジタルデバイド解消、オープンイノベーション、札幌DXラボ他</p>
所見及び所感	<p>札幌市の市長公約に「書かない窓口の実現」を掲げており、DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応を進め、効率を上げていきたいとの記事から、札幌市全体のデジタルへの取組を注目していた。</p> <p>「書かない窓口」とは住民が申請書に記入することなく住民票などの交付が1か所で受けられるワンストップ窓口のことであり、バックヤードのシステム作りが求められる。現在試験導入が試みられているが、実証から実装される予定と聞く。また全庁的にデジタル化の基本方針を策定し、内部の基幹システムに加え、市民が来庁せずに行政手続きを行えるシステム作りに取り組んでいる旨、説明を受けた。</p> <p>一言でいえば、「スマホ一つで何でもできるまちに」をコンセプトに、専門部署を設け実施に向け取り組んでいる。</p> <p>また、デジタルにして使えない人がでないように、サポートする体制づくりが必要との認識にたち、誰もが使える仕組みづくりを目指している。そして、ITベンチャーの起業ブームが起こった「サッポロバレー」と称されるまちの基盤があり、DX推進のための民間提案の受入れ窓口を新設し、予算を盛り込んでいる。DX内製化への職員育成と、庁内の体制整備に取り組んでいる。政令都市で、本市と規模が違いますが、今後の市政に参考になる取組だと思う。</p>